
雨が降る（前）

八坂 千景

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨が降る（前）

【ZPDF】

Z38990

【作者名】

八坂 千景

【あらすじ】

鮮やかな赤色をした傘を差して。
叶うはずのない奇跡を願いながら。

雨の降る午前時に。

つまらない事を、考えてしまった そんな少女の雨宿り。

雨が降る。

既に知つてゐることだが、感傷に戸惑いながら呟く。

雨が、降つた。

私は買つたばかりの鮮やかな赤色をした傘を、今持つてゐる。しかし、とても差すような気分にはなれなくて。

なんとなく、思いつきで、とある駄菓子屋の屋根で雨宿り中である。ほら、こうしてみると、こんな私でも傍から見りや絵になるだろう。そんなことも考えながら、それとは別のことも考えながら、屋根から滴る雨のしづくを眺めてみた。

私、可愛いな。

こんなことしちゃう私って、可愛いね？

自虐的な笑みをこぼして、ぎゅっと目をつぶり、水の膜を張る。そしてそれも一瞬。

すぐに目を開くと、湿つた空氣と大粒の雨水が目に入った。耳には、心地よい雨音が入つてくる。

それがどうしようもなく、苦しい。

体中から溢れるほどの感情が、雨粒が、苦しい。

雨の中感傷に漫つて悲劇のヒロインを演じるつもりなんてなかつたのに。

晴天の中感情に溺れて喜劇の主人公を演じるつもりだつてなかつたのに。

全て全て、予想した、妄想した、空想した、幻想した。

なのに、たつた一言で壊れたいと願つてしまつ私は。

ここまで、弱い存在だつたのだろうか？

答えなんて、誰からも返つてこないことも、私は知つてゐる。

雨は降り続く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3899o/>

雨が降る（前）

2010年10月18日22時28分発行